

1 担い手の確保について

高橋 昌勝 委員 (R4. 5. 23 産業振興審議会)

- ・人工林が利用期を迎えているとのことであるが、新規就業者数が40～50人前後という現状では、材料はあるが人がいない、という状況になり、今後大変ではないか。

内田 龍男 会長 (R4. 5. 23 産業振興審議会)

- ・若い人たちの参入のためには、一つは魅力を感じてもらうこと、もう一つは価値が高くなること、工業系とも連携して効率を上げるなど、色々なことが考えられると思う。

木村 明子 委員 (R4. 5. 23 産業振興審議会)

- ・林業の新規就業者数については、森林組合でも年間2～3人程度であり、その要因としては、希望者が少ないということの他に、一度にたくさんの人を雇えないという現状がある。
- ・林業の作業は機械を使用したり、資格が必要であったりと、育成に大変時間がかかり、他産業と比べ、一人で働けるようになるまでに時間がかかる。
- ・みやぎ森林・林業未来創造カレッジが本格スタートし、新規就業者の確保を後押ししていただきながら、事業体としても確保に取り組んでいきたい。
- ・一方で、新規就業だけでなく、いかに長く働いてもらえるかということにも力を入れており、今後、数を増やすというよりは、長く働いていく人、技術を持った人を増やすといった視点で見えていただければ良いと思う。
- ・100人という数だけではないところに目標を設定しても良いのではないか。

水野 暢大 委員 (R4. 5. 23 産業振興審議会)

- ・現在の計画を見ると、研修会の開催などにしか触れていないが、後継者の育成という部分が重要と考える。
- ・環境と成長の好循環というテーマを共に学んでいける、魅力を感じてもらえるような環境を作っていかなければ、後継者の確保は難しい。
- ・林業は国内で生産・循環できる素晴らしい素材と環境に合った職業であり、今後の日本にとっても重要な職業であると、多くの若い人が理解するチャンスをもっと計画の中に盛り込んでも良いのではないか。
- ・木を育てるには人を育てるという観点がもう少し強くても良いのではないかと思う。

木村 明子 委員 (R4. 7. 20 水産林業部会)

- ・取組10の森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成という項目に関連して、先週、柴田農林高校の3年生が職場見学に来て、仙台市内の学生が林業に就業したいとのことであった。
- ・そのきっかけが、小学生の時に地域で里山整備の活動をされているグループの活動に、おそらく学校の行事を通して参加し、その体験からスタートして、山の楽しさを知り、柴田農林に進学し、勉強した上で林業に就業することを選択したとのことであった。
- ・小中学生の時に、森林づくりなどを体験することの大切さを改めて認識し、そういった活動のサポートにも力を入れていかなければならないと感じた。

木島 明博 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・うちの近所の方が林業を目指したいとのことであったため、話をしてきたが、一番大きいのが、林業が単に山を守るのではなく、地球を守る職業であるということで、話をしていくと、そういった深い動機があった。
- ・そういった部分を強調されると、後継者や関係者が増えていくことに繋がるのではないかと思う。

角田 毅 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・26ページの「新規就業者の推移」のグラフで、“新規高卒”という言葉が使われている。農業だと“新規学卒”という表現をしているが、実態として大学生とかそういった方々はいないということになるのか。
- ・高校だけではなく、大学とか、農業でいう農業大学校のようなどころの方も全体として施策の対象、ターゲットとするというところは変わらないのではないかと思った。
- ・また、外国人、技能実習生の方というのは林業分野ではどのようになっているのか。農業と同様、担い手が減少していく中で、技能実習生の採用という部分も結構出てくると思う。

2 みやぎ森林・林業未来創造機構について

木村 明子 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・追記が予定されている「みやぎ森林・林業未来創造機構」について、これまで行政や民間事業者、教育機関、NPO等が関わって組織する団体はあまりなかったかと思う。
- ・機構の中では、新規就業者の確保・育成の他にも、林業全体・森林全体の今後の課題について考えていくこととしており、こうした機構の事業構想と基本計画がうまく連動する中で、労働力の問題だけではない部分で取り組みを進めていただければと期待している。

3 健康優良経営法人認定制度の周知について

齋藤 由布子 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・先日開催された健康優良経営法人認定制度説明会において、参加者のほとんどが初めて制度について聞いたと答え、林業・農業の認定事業者は分野別に見ると最下位であった。
- ・林業は認定業種トップの建設業と同等の危険を伴う作業がある業種であり、従事者の安全と健康を守ってこそその計画ではないかと感じる。
- ・認定事業の広報周知について、取り組まれているかについて確認したい。

4 自伐型林業について

佐藤 太一 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・批判しているわけではないが、自伐型林業を政策として推す意味はどこにあるのかを伺いたい。
- ・県として皆伐・再造林を目指し、経営計画を立てて施業を行っていく政策を進めている中で、自伐型林業はどのようなポジションなのか。
- ・自伐林家の定義が曖昧であり、読んだ人に誤解のないようにしていただきたいと思う。
- ・自伐型林業も経営計画を立て、労働災害に気をつけ、安定的な木材生産を行う、計画性を持ったものに誘導していかないと、一人親方といった、過去の繰り返しになってしまう。
- ・自伐型だから別の話し、ということがないようにお願いしたい。

5 森林経営管理制度について

木村 明子 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・森林経営管理制度が進まない問題は、おそらく、森林の境界が明確ではない点ではないかと考える。
- ・森林施業や経営計画の策定に取り組んでいく中で、いかに境界を明確にして、施業を行えるかというところを解決する具体的な取組を計画の中にも入れ込んでいただきたい。
- ・また、林地台帳が導入され、どれだけ効果を発揮するかというところであるが、市町村の状況によっては進んでいないところも多い。こういった点もうまく活用できるような取組を盛り込んでいって欲しい。

木村 明子 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・中間見直しの中で、森林経営管理制度についての項目が追加されるということであるが、森林経営管理制度は市町村が主体となっている中で、県や市町村の役割、林業事業者の関わりといった様々な部分がうまく噛み合わさって、制度が回っていくものだと思う。
- ・市町村が制度を進めていく上で問題となっている課題についても、聞いていただいて、それを解消するためにはどういった取組が必要なのかということも検討いただければと思う。

木村 明子 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・林地台帳の整備について、新たに中間案で書き込んでいただいているが、「境界の明確化」という言葉をどこかに盛り込んでいただけると分かりやすいかと思う。
- ・所有者目線、一般の人からすると、林地台帳の整備というよりは、境界の明確化という言葉がどこかに入っていると、より取組内容が分かりやすいのではないか。
- ・やはりそこが解決しないと、なかなか森林経営管理制度の方も進まないと思うので、具体的な取組事項として盛り込んでいただきたい。

6 再造林について

木村 明子 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・森林所有者の現状として、70～80代の方は林業の大切さや山の手入れの大切さも理解しているが、その下の世代については、山はお荷物という考えの方が多く、山に対する価値観が下がってしまっている状況であり、40年後に向けて木を植えようという気持ちになりにくい。
- ・再造林に重点を置いていく上で、所有者の現状と、安心して再造林に取り組めるような制度を明確に提示いただけると良いかと思う。

木村 明子 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・中間案13ページ中の「4 森林資源の充実と成長産業化」の項目の中で、新たに伐採から再造林・保育に至る収支をイノベーションでプラス転換とする「新しい林業」というところを書き込んでいただき、目指すべき方向にも記載されているが、この辺りの説明がもう少し具体的に欲しいと感じた。
- ・後半の取組事項1～12の中に記載があるかと確認してみたところ、おそらく政策Iの取組1の辺りに記載される内容かと思うが、もう少し「新しい林業」という言葉やイノベーションというところの取組を具体的な形でどこかに書き込んでいただければ、より分かりやすく期待の持てる計画となると思う。

齋藤 由布子 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・ 審議中に一部触れられた「低コスト化」は、具体的にどの費用をどの程度削減するイメージか。
- ・ 機械化などによる合理化といった点であれば良いが、納期や人件費にしわ寄せがいくのでは、この先就業者を増やし、本質的に豊かな暮らしを享受できるのか疑問を感じる。

7 木質バイオマス導入施設数について

高橋 昌勝 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・ 木質バイオマス導入施設数について、目標値を上回っているが、材料となる木質チップは県内で生産されたものを使っているのか。
- ・ 4～5年前は地元からの木質チップの供給が難しく、県外産や輸入品を使用していた。
- ・ 地元の材料を使うのが一番だが、経験上、どうしてもコスト高となってしまう、使えないのが現状のため、コストダウンしながら使っていけるような仕組みになると良いと考える。

8 県産材を使用した木製品の設置について

高橋 知子 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・ 日本は外国に比べてベンチが少ない。
- ・ 宮城県は東北ならではの自然を楽しむ観光地が多く、そういった観光地にCLTベンチなど、宮城県の木で作ったベンチがあれば、子どもたちも林業に興味を持つのではないかと。

9 木工品の普及や特用林産物の販売について

早坂 具美子 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・ 資料について、フードコーディネーターとしての目と一般の主婦の目で見させていただいたところ、一般の主婦の目で見ても、森林の概要を知ることができ、とても分かりやすかった。
- ・ 一方、フードコーディネーターの目を見たとき、一つ残念だったことは、木工芸品の普及についての取組。
- ・ 今までは目で見て購入することがほとんどであったが、今はSNSで見て、そこからHPに飛んで買い物をするという時代であり、我々が撮影現場で使用するものも、大体そのようにして購入している。その際、宮城県産の木工芸品はあまり目にすることがないため、残念に思っている。
- ・ もう1点、特用林産物等の食品の販売について、本当にマーケットインになっているのかという点が心配である。

早坂 具美子 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・ 22ページについて、キクラゲやメンマなども取り上げていただき嬉しい。
- ・ この加工品については、マーケットインになっていないのではないかと前回お話ししたところであるが、やはりもう少し努力が必要かと思う。手をかけて育てていかなければならない。
- ・ 例えば、産官学のオール宮城ではなく、食材のオール宮城として、すぐ食べられるものを提供するとか、お土産にしても、家に帰ってすぐに活用できるものに変えていかなければならないと考える。
- ・ 単品だとなかなか売れないのが現状であり、特に今はデパートなどで「おいしいですよ！」とPRすることもできないため、パッケージなども十分気をつけて、手をかけてロングラン商品・目玉商品にしていってもらいたいと思う。

- ・木材についても、分からないことがたくさんあったが、この審議会に参加し、勉強させていただいた。撮影の際も木のものはとても大切であり、今後は南三陸のものなど確認させていただきたい。
- ・1点、チップなどについて、ペット用品にももっと活用して欲しいと考える。
- ・人口減少社会の中で、ペット市場はどんどん大きくなっており、チップやゲージ、犬小屋などにも県産材が使用されていたら良いと思う。

10 国内需要の拡大について

水野 暢大 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・国際的に輸入品が非常に高くなってきており、また、世界の人口が増加する中で、国内で需要を賄わなくてはならないという状況にある。
- ・ウッドショックもあったが、全ての物について国内需要を増やすという点についての視点にシフトすることが必要と考える。

11 海岸防災林の復旧について

木村 明子 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・海岸防災林の復旧については、当組合の方でも関わっているが、植栽自体が完了し、「復旧完了」という言葉も出ているが、植えて完了なのかという点は疑問がある。
- ・今後どういった形の海岸防災林を目指していくかというところは、協議会で取り組んでいくことだとは思いますが、完了ではなくて、これからも続いていくという部分を、計画の中にもうまく取り込んでもらえるといいと考える。
- ・中間見直しとは関係してこないかもしれないが、今回のように海岸防災林が大きな被害を受けて、植栽を行うという事例は他の県ではないことであり、今後の指針となるような植栽や保育の方法なども検討いただけたらと思う。

12 SDGsについて

佐藤 太一 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・SDGsについて記載するのであれば、既に基本計画にも記載されているが、森林認証についても入れて欲しい。
- ・SDGsの方でも、森林認証そのものが有効な手段であると明示されているため、SDGsを項目に追加するのであれば、森林認証についても記載し、宮城県でも既に実行していることを反映してもらいたい。

水野 暢大 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・SDGsについて、言葉では出てくるが、その表現方法が問題となる。
- ・基本計画を見た時に、SDGsの中に関係してくる内容がたくさんあり、それが人口減少や激甚化する災害、カーボンニュートラルなど、全ての要件を満たしてくると思う。
- ・この林業がSDGsの全てを満たしているということ自体を、皆が知っていくことが、林業に従事する人を増やすことに繋がるのではないかと。
- ・林業に従事するという考え方自体も、昔と今は違うのではないかと。そういうところを伝えていけるような内容になっているかという点が重要。
- ・計画案としては非常に緻密で計画的で理想的なのかもしれないが、こういったソフトの部分をもっと分かりやすいと、より良いのではないかと。

- ・先日当社ではSDG s 宣言をしたが、その後、高校生40人くらいが、ぜひ会社に来たいという声がかかった。
- ・SDG s は実は今高校生が就職する時の第一条件になっているとのことであり、SDG s を目指しているような会社に就職したいというふうに言われ、これからの子供たちにとって、こういう方向で仕事を選んでいくということが大切なのだと知った。
- ・林業がSDG s の全ての部分に繋がっていくということを掘り下げていくことが、新しい林業の魅力を発することの糧になり、担い手の確保にも繋がるのではないかと。

木島 明博 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・SDG s の各取組へのアイコンの設定について、ぱっと見る限り、直接関係しているところしか入っていないように思う。
- ・例えば、取組6の自然災害に強い県土の保全対策については、海にも関係すること。その他にもかなりの部分で海にも関係するところがあり、そういったところは入れた方が良いと思う。
- ・森林だけを見ているのではなく、海も関係しているんだということを入れていく、逆に海は山の被害を全て受け入れている。
- ・海と山は関係しているということを理解していくことが大切であり、水産林政部もそういう事で立ち上げられたのではないかと思う。

13 生物多様性について

藤野 正也 部会長 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・森林はSDG s の根本の一つではあるが、本来的なサステナビリティの中心は、経済的持続性と生態系の持続性であり、その根幹の1つが生物多様性である。
- ・森林は生物の住む場所であり、生物多様性の場所ではあるが、この基本計画を見たときに、生き物の話はほぼ出てこない。これは日本の林業政策の特徴であり、木しか見ていない、木をお金に換える事しか考えてこなかったという背景がある。
- ・SDG s の根幹である生き物の事についても、この基本計画の中で触れていただく方が本来は良いと思う。むしろ、触れていなければ何をやっているんだというのが世界標準レベルである。
- ・ただ、そこまで一気に入れ込もうとすると、大変な作業になるため、見直し時点ではどこかに項目を入れておいて、5年後改めて計画を作る際に、真ん中に入れていただければと思う。
- ・生き物は希少種を守るということではなく、身近な生き物を守るという視点で良い。希少種になる前に普通の生き物のことをきちんと話していくということがSDG s の考え方。

14 山林のパトロールと手入れの行き届かない森林の管理について

水野 暢大 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・SDG s については非常に分かりやすくなったと思う。誰が見ても循環型社会の中で行っていくという認識が持てるということで、一番問題なのは、後継者の育成、そのためには魅力ある職場でなければならない。
- ・魅力ある職場というのは、山を管理するための道路や環境が整備されている、作業性も向上し、入りやすくなる。今手つかずの山で災害がたくさん起きており、倒木が発生し、それが流れてきているというようなことが起きている。
- ・そういった山の管理体制についての項目、現場のパトロールについて改善するという内容があると良いかと思う。

- ・どの程度山を管理することができるのか、ITを使った環境整備などができれば、災害も減らすことができるのでは。
- ・現体制で森林の適切な管理が為されているのかというところが一番の問題と考える。今の計画を進めていく上で、現在の体制で大丈夫かというところが少し心配に感じた。
- ・体制が機能しないと意味が無く、また機能することによって、山や林業の魅力を再構築するという事に繋がる。そういった面からもパトロールは注意すべき項目に入ると思う。
- ・昔は山がお金になり、たくさんの方が山を歩くことで管理されていたが、プロフェッショナルが管理をしていくということは、山の方向性や観光、教育など、多方面にわたって森林の良さをPRしていけるとともに、最新鋭の機械を使ってスマートな林業の環境を構築していくことは、後継者の確保にも繋がる。
- ・高速道路のインターを降りたあたりはガードレールが見えないくらいに草が生い茂っており、花壇も伸び放題、東北本線の線路には草が生えているという状況を目にすると、以前の日本ではなくなってきているように思う。
- ・そういったことを考えると、山の方も同じなのではないかと思う。倒木の映像や災害で流れてくる様子を見ると、管理されていないことを感じる。

木島 明博 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・パトロールについて、ドローンは上から見えるが、中のことは分からない。
- ・動物行動学ではよく行う手法だが、いくつかのポイントにカメラを設置し、ある程度時間を決めて撮影する、あるいは中央管理できるようなシステムがあると面白いと感じた。
- ・計画に記載のある生物多様性を保全するというところで、データを取るために必要と考える。
- ・林業についても、落ち葉や腐葉土などがどの程度あるのかなどのデータを集めるためにも必要であるし、山に入る人が少なくなった中で、行きにくい奥山がどういう状況になっているかということを常に確認できれば、森林管理に情報を与えてくれるのではないかと。

15 メガソーラーの設置について

笠間 建 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・一般の県民にとって一番の目に見える変化はメガソーラーが森を切り開いて設置されている姿であり、興味関心の高い事項であると考えられる。
- ・現に県土に多大な影響を与えているメガソーラーについて、中間見直しで言及がないのには違和感がある。
- ・みやぎ森と緑の県民条例基本計画において、大規模太陽光発電施設の広がりにより、何かしらの影響があるようであれば、ご教授願いたい。

藤野 正也 部会長 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・ソーラー発電については、県民の関心の高いところであり、森林審議会でも林地開発許可において議論しているため、何かしら言及が必要なご時世になっているのではないかと思います。
- ・この点は森林審議会の意見も重くなってくると思うし、国の対策も検討されているとのことであるため、中間見直しでそういった意見が入り込むか分からないが、入れる方向で検討された方が良いのではないかと考える。
- ・5年後には太陽光パネルが崩れるなどの社会的問題が発生した時、何を評価していたんだという話になる。許可の条件を決めるのは国ではあるが、それを受動的に待っているだけでは、スタートが遅れてしまうのではないかと考える。
- ・今回入れるか入れないかは別として、必ず何かしらの政策を検討いただき、次回の審議会の中で回答いただくのが良いかと思う。

木島 明博 委員 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・太陽光発電について、どういう風に取り扱っていくか、どう考えていくかということについて伺いたい。
- ・太陽光発電が良いことは分かるが、悪い面もあり、森林にとっては必ずしも良いことではないのではと考える。
- ・バランスを考える上においても、この問題は少し早めに問題提起した方が良いのではないかと。
- ・自然エネルギーというのは、太陽光も含め、自然のエネルギーを使っているから害がないと思われるが、風力であれば風のエネルギーが今まで当たっていたところに対して、それが無くなるというところについての量的な研究が必要かと思う。
- ・どのくらいの損失があるのか、例えば潮力であれば、プランクトンが増えるのか減るのか、そういう基礎データをきちっと見ていくこと。
- ・むしろエネルギー問題はすごく大変なことであり、どんどん進めていくように、そういったきちんとした研究を行っていくことが大事であり、林業試験場の役割の大きさではないかと思う。
- ・そういった視点をこういったところに挙げておくことが大切。

16 全国から見た宮城の林業および産業のポジションについて (宮城県の強みについて)

齋藤 由布子 委員 (R4.5.23 産業振興審議会)

- ・参考資料1の15ページの全国順位を見る限り、宮城県の強みが分り辛く、北海道・秋田の圧倒的なブランド力を超える要素が欲しいところである。
- ・宮城県の林業が盛り上がるとして、その出口としての需要はどこまで見込めるものか。
- ・質なのか、量なのか、新規性なのか、後継者育成なのか、宮城県が注力すべき項目がポジションから図られるのではないかと。

佐藤 太一 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・5月23日の産業振興審議会での意見の中にも「宮城県の林業の強みが分りづらい」という記載があったが、本当は宮城県の林業は強みがたくさんある。
- ・例えば、木材流通の面で見れば、石巻を中心とした合板工場の存在や、環境面で見ても台風が少なく成長量が良いなど。計画の前半にはいくらか記載はあるが、宮城県の林業はすごいという点を、もっとどこかで表現して欲しい (基本計画に関わらず)。

17 林業試験場の役割について

木島 明博 委員 (R4.6.2 水産林業部会)

- ・基本計画を見させていただき、非常にわかりやすく全体像が書いてあり、今回の見直しで中心を変えない方針としている理由がよく分かった。
- ・その上で、現状に合わせてどのように訂正を加えていくのか、どういうふうに書き込んでいくのか、イメージが湧いてこない。
- ・これは要望であるが、今後、基本計画のどこをどのように変えていくのかわかりやすく表現してもらえればと思う。
- ・もう1点、水産の基本計画では、水産技術センターの位置付けが明確に為されている。今後、SDGsや各種施策に取り組んでいく中でも、県の持つ試験場の役割は大きくなっていくと思う。
- ・その辺りを組み込むイメージも分かるようにしてもらえれば良いと思う。

18 県民への森林、林業・木材産業の重要性の周知について

藤野 正也 部会長 (R4.7.20 水産林業部会)

- ・こうした計画を作って、それを広めていくということをどんどんやっていかなければならない。
- ・林業労働力として来てもらう以前に、県民に林業に興味を持ってもらうことが重要。
- ・県民はそれぞれ子どもの保育園や親の介護などについて考えており、それほど林業に関心があるとは思えない状況の中で、森林・林業が大切であるということを知ってもらうこと。
- ・この基本計画はそういう点では1つの切り口として重要なツールかと思う。
- ・これをいかに広報していくかということが必要。

松木 弥恵 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・昨日、一昨日あたりからの大雨の被害や昨年の熱海の土砂崩れなど、自分たちが子どもの頃には考えられないような災害が一年に何遍も起きている。
- ・それに対することが多々書いてあるが、雨だけでなく山火事もあるし、鳥獣被害も多く起きている中で、山そのものではなくて、そこに繋がる、暮らす方たちへの周知を、もう少し分かりやすい言葉、強い言葉で文章としてあつたら良いかと思う。

内田 龍男 会長 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・森林は台風や雨などに対する防備として、非常に効果のあるものであることは間違いなく、また、地球温暖化の防止の役割もあり、森はものすごく重要で、絶対に無くしてはならないという基本があるかと思う。
 - ・また、木材は他の材料と比較して高級感があり、これをうまく使えば、高度な産業としてなりうる可能性もある。
 - ・その両方を使って、森林というのをこれからますます重視していくような仕組みが重要だと考える。
- 総論として、「いかに森林が重要であるか」ということをわかってもらえれば、皆さんもこれを応援してくれるように思う。

水野 暢大 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・「山を放置するとどういことが起きるのか」、「森の力も分かるけど、森の怖さも分かる」という点が重要だと思う。
- ・やっぱり「山は皆を守っている」というところと、「放置すると危険である」ということが、明確に分かるということも重要だと思う。
- ・それから、最近東京や仙台で木造の高層ビルが建築されており、オリンピックの会場も木造ということで、木の魅力というのが既に出回ってきている。そういった事例が、この中に写真でも入ってくると、森の深さなどが伝わるのかと感じた。

19 森林の公益的機能の可視化・価値化について

佐藤 太一 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・Jクレジットの見直しや、ESG投資、森林ファンドの部分というのも、林業界隈ではここ数年、かなり話題性が高まってきているところがある。また、最近では、ネイチャーポジティブという言葉も出てきて、色んな企業も環境を良くすることで経済活動を活発化しようという考えが出てきており、それもまた投資対象のようなものにしていこうという動きがある。
- ・まさに林業はそういったものど真ん中にあると思っており、そこにどうやってリーチするかということは、世界的にも林業の課題となっている。
- ・次の計画見直しまでの5年間でもかなり変動していくジャンルだと思うので、次期ビジョンに繋げる上で、そういった目線などを入れるべきと考える。
- ・一番分かりやすい話として、Jクレジットは入っているが、さらに森林の公益的機能を可視化して価値化するような取組の部分は、まだどこにもなく、現在、行政で目線に入れているところは結構少ないのかもしれないので、そういった部分を入れていった方が良いと思う。

20 木材流通におけるDX化の推進について

佐藤 太一 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・山側、川上側のスマート林業などは盛り込まれていたと思うが、木材流通の中でも、DX化、デジタル化といったものを利用して、情報管理などが必要になってくるのではないかとというのが、最近個人的にも興味がある点であり、実際色んなところで検討もされている。
- ・林野庁等においても話題に出てきていると思うが、そういった辺りにアプローチする部分についてもう少しカバーしてもらいたい。

21 林業の基盤整備について

内田 龍男 会長 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・大卒者が興味を持って、「ぜひ林業分野に入りたい」と思うような仕組みができれば面白いという気がしている。
- ・問題は、山の中に入って木を伐ったり、それを下に下ろしたりというのは、非常に大変なので、伐採・運搬する仕組みを工学的に開発できたら大きく改善でき、大学関係者がすごく興味を持ち始めるのではないかと。
- ・その一つとして、森林用の道路だとか、そこから運ぶ仕組みを作った上で、人工的な森林を作っていくという方法が考えられるのではないかと。それを環境や観光を含めていろんな形に繋がっていくと非常に良いと思う。

藤野 正也 部会長 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・数十年前までは、日本はすごく林業良かった。例えば、山の木は川上にあり、街場が川下の海に近いところがあるので、川に木を落とせば港まで流れていき輸送コストも安かったが、その後、ダムが造られて輸送できなくなってしまった。
- ・また、田舎の国道は細いので、大型トラックが入れず生産性が上がらないといった課題もあり、林業単体だけではなくて、社会インフラ全体も含めて、どんどん変わっていかないといけない。
- ・このような状況を変えるには、5年10年真剣に、それこそ特区でも作ってやっていくところまで検討していくことが必要であるが、今回は中間の見直しなので、そこまでは踏み込まずに、次の改正の時に「これなら宮城の林業が変わるよね」というものを、県庁の中で5年の間で揉んでいただく時間になれば良いかと思っている。

佐藤 太一 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・5年後の改正まで待つてはられない昔からの課題として、林道の整備がある。作業道については施策もあるが、林道に関しては、せめて林業専用道のレベルのインフラを整備して欲しいというのが、ずっと議論されている部分である。
- ・台風なども増えてきて、既存の古い林道も壊れてきてしまっている状況なので、新しい林道を着実に作っていくとか、インフラの部分に関しては、この今回のビジョンの中にも入れておいても良いのではないかと。

22 その他

木村 明子 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・宮城県も含め、日本の人工林のほとんどが個人の所有となっており、しかも小規模で、多くの小規模所有者の方は、ほぼ経営はできない状況というのが実情である。
- ・森林には公益的機能があり、公共財産的な役割も果たしている一方で、管理が行き届かない所はあくまでも所有者の管理責任になってしまっており、個人ではなかなか収入が伴わずに、費用を負担して手入れをすることができない森林が多く存在するというのが現状である。
- ・今回の計画の中には、再生林の推進や、整備を進めるための森林経営管理制度に関する記載があり、そこに繋がっているのは理解しているが、森林所有者の元気がなく、希望が見えない状況にもあるため、所有者の目線から見ても、希望が持てるようなところも盛り込み、そういった点を皆さんにも理解していただきながら、進めていっていただけたら良いかと思う。

笠間 建 委員 (R4.8.5 産業振興審議会)

- ・商品開発やマーケティングの分野では、サービスを改善したり、新規開発を行う時などには、4つの段階に分けて考えることが多い。
- ・まず最初に「ダボタイプ」で本当にそれができるのかを試みて、次に「テストタイプ」で何パターンかそれが本当に再現性があるのかを確認し、量産タイプに近くなると「プロトタイプ」を製作し、最後に「モデルタイプ」で色んな人たちがモデルとなるようなケースを作っていくというステップを進める。
- ・先ほど具体的に林道の話題が出たと思うが、一気に解決するのが難しいのであれば、1年目はダボタイプを作り、2年目はテストタイプを作り、3年目にプロトタイプをやって、4年目にモデルタイプというように、5年目には皆さんが参考になるような事例を作れるような形になると思う。